

令和 7 年度全国保育士養成セミナー

開 催 案 内

未来ある保育者養成へアップデート！

一般社団法人 全国保育士養成協議会

令和 7 年度セミナー 企画委員会 実行委員会

担 当	中部ブロック
開催日	令和 7 年 8 月 27 日（水）・28 日（木）
会 場	今池ガスホール（オンライン併催） 名古屋柳城女子大学・名古屋柳城短期大学

令和 7 年度全国保育士養成セミナー日程表

主 題 未来ある保育者養成へアップデート！

○令和 7 年 8 月 27 日（水）

11:00	12:00	12:30	13:30	13:40	14:40	14:50	16:50	17:00	18:00
受 付	開会式	行政説明	休憩 10分	基調講演	休憩 10分	シンポジウム	休憩 10分	中央研究報告 中央情勢報告	翌日の大会 に関する 事務連絡

○令和 7 年 8 月 28 日（木）

10:00	12:00	12:10	13:00	13:10	13:30
分科会	休憩 10分	ブロック研究助成報告 学術研究助成の成果報告	休憩 10分	閉会式	

目 次

令和7年度全国保育士養成セミナーのご案内	1
・セミナープログラム 1日目（対面・オンライン併催）	4
行政説明	5
基調講演	6
シンポジウム	7
中央研究報告・中央情勢報告	8
・セミナープログラム 2日目（オンラインのみ）	9
分科会一覧	12
セミナー 参加申込のご案内	26
運営組織	28

全国保育士養成協議会会員 各位

一般社団法人全国保育士養成協議会
令和7年度セミナー

運営組織委員長	汐見稔幸
大会長	菊地伸二
実行委員長	加藤紳一郎

令和7年度全国保育士養成セミナーのご案内

I 開催テーマ 「未来ある保育者養成へアップデート！」

ここ数年、保育業界はかなり厳しい状況におかれています。従来からの保育者不足に加えて、少子化に伴う18歳人口の減少があるなかで、不適切保育に関する報道などを背景とした高校生の進路としての保育離れは、保育者不足を一層加速させる可能性を孕んでいます。保育者養成校は、学生の質と量の確保という現実的な厳しい課題に直面しています。しかしながら、子どもや家族を取り巻く社会の急激な変化があるなかで、子どもの育ちを支える保育や保育者の役割の重要性は年々高まっています。

今、必要なことは、保育の魅力を再確認するとともに、新しい保育や保育者の在り方を共有し、社会・次世代へと発信していくことではないでしょうか。

そこで、今回の令和7年度全国保育士養成セミナーは、「未来ある保育者養成へアップデート！」として開催することといたしました。

これからの保育者養成は、「幼保小の架け橋プログラム」に代表されるように、保育現場と養成校だけのつながりではなく、子どもに関わる大人が立場を越えて連携することが求められています。小学校以上の学びの体系がかわっていく中で、乳幼児期の子どものためにどのような保育者養成が求められているか考えていく必要があります。

そこで本セミナーの1日目（オンライン併用）では、文部科学省初等中等教育局主任視学官の田村学氏を基調講演の講師としてお招きして「幼児期と小学校をつなぐ」と題してご講演いただきます。さらに、その後のシンポジウムでは、接続期を意識した保育園と小学校の実践を報告いたします。田村氏にも指定討論者として加わっていただき、乳幼児期から小学校期への学びの姿の連続性について考えていきたいと思います。2日目（オンラインのみ）も多様な12の分科会を企画いたしました。

保育者養成の未来を明るく照らす企画を中部ブロック会員校一同で準備しております。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

Ⅱ 主 催 一般社団法人 全国保育士養成協議会

後 援 こども家庭庁 愛知県 名古屋市
(予定) 社会福祉法人全国社会福祉協議会 社会福祉法人日本保育協会
公益社団法人全国私立保育連盟
愛知県教育委員会 愛知県私立幼稚園連盟 愛知県私立保育園連盟
愛知県社会福祉協議会 あいち保育研修研究協議会

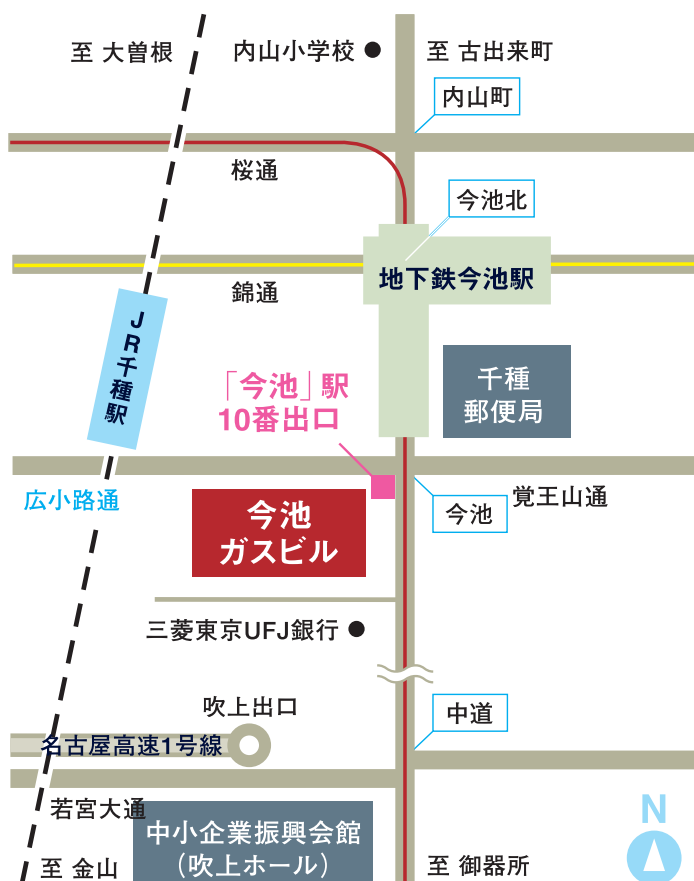
Ⅲ 期 日 令和7年8月27日(水)～8月28日(木)

Ⅳ 担 当 全国保育士養成協議会 中部ブロック
名古屋柳城女子大学・名古屋柳城短期大学

Ⅴ 会 場 今池ガスホール(対面・オンライン併催)
〒464-0850 名古屋市千種区今池1-8-8 今池ガスビル9階
TEL 052-731-7670

名古屋柳城女子大学・名古屋柳城短期大学(オンラインのみ)
〒466-0034 名古屋市昭和区明月町2-54
TEL 052-841-2635

今池ガスビル



地下鉄ご利用の場合

東山線:「今池」駅下車 10番出口に直結
桜通線:「今池」駅下車 10番出口に直結

JRご利用の場合

JR中央本線:「千種」駅より東へ徒歩
約10分

名古屋駅からのアクセス

地下鉄:東山線藤が丘行きに乗車10分
「今池」駅下車 10番出口に直結

中部国際空港セントレアからのアクセス

名鉄電車:名古屋駅まで最速28分

お車ご利用の場合

名古屋高速:吹上東出口
春岡インターからお越し
いただくと便利です。

VI 日 程

日程	時間	プログラム	内容
8月27日（水） 対面・オンライン 併催	11：00～12：00	受付	
	12：00～12：30	開会式	
	12：30～13：30	行政説明	P5
	13：40～14：40	基調講演	P6
	14：50～16：50	シンポジウム	P7
	17：00～18：00	中央研究報告・中央情勢報告	P8
8月28日（木） オンラインのみ*	10：00～12：00	分科会	P12
	12：10～13：00	ブロック研究助成報告・学術研究助成の成果報告	
	13：10～13：30	閉会式	

※会場での参加・視聴はできません。

VIII 参加申し込み方法

本書P 26を参照

申し込み期間：令和7年5月15日（木）～令和7年7月25日（金）

1日目の参加方法については、対面（会場の収容人数の上限340名）もしくはオンラインかご選択ください。

※申込時に1日目を対面（今池ガスホール）で参加希望される場合は、2日目がオンラインのみのため、2日目の視聴環境を確保された上でご選択ください。

（会場にお越しいただいても入場及び会場での視聴はできません。）

IX 参加費

対象区分	参加費（一人当たり）
① 保育士養成校等教職員	10,000 円 （税抜 9,091 円 消費税 10% 909 円）
② 児童福祉施設職員等 （認定こども園職員・幼稚園教諭・行政職員を含む）	3,000 円 （税抜 2,728 円 消費税 10% 272 円）
③ 学生・院生	1,500 円 （税抜 1,364 円 消費税 10% 136 円）
④ その他（①、②、③以外）	10,000 円 （税抜 9,091 円 消費税 10% 909 円）

セミナープログラム 1日目(対面・オンライン併催)

令和7年8月27日(水) 12:00～18:00		頁
12:00～12:30	開会式	—
12:30～13:30	行政説明 演 題 保育行政の動向と課題 講 師 こども家庭庁成育局 成育基盤企画課(予定)	5
13:30～13:40	休 憩	—
13:40～14:40	基調講演 演 題 幼児期と小学校をつなぐ ―教育課程の基準の改訂を視野に入れて― 講 師 田村 学 氏(文部科学省初等中等教育局 主任視学官)	6
14:40～14:50	休 憩	—
14:50～16:50	シンポジウム テーマ 乳児期から小学校における子どもの学びの姿を考える シンポジスト 名古屋市立山吹小学校関係者 市川 沙也加 氏(愛知県南知多町立保育園 保育士) 丹羽 加奈子 氏(名古屋市内 民間保育園 元園長) コメンテーター 田村 学 氏(文部科学省初等中等教育局 主任視学官) 司会／コーディネーター 上田 敏丈 氏(名古屋市立大学 教授)	7
17:00～18:00	中央研究報告・中央情勢報告	8

講演〔行政説明〕

演 題 保育行政の動向と課題

講 師 こども家庭庁成育局 成育基盤企画課（予定）

基 調 講 演

演 題 幼児期と小学校をつなぐ —教育課程の基準の改訂を視野に入れて—

講 師 田村 学 氏（文部科学省初等中等教育局 主任視学官）

接続期における連続性・一貫性のある教育とは

(1) 接続期の充実に向けた連続性と一貫性の視点

幼児期から小学校に向かう接続期においては、一人一人の子供が思いや願いをもって学習活動に没頭し、真剣に追究し、自己表出していく教育活動を行うことが重要である。また、全員が楽しく取り組む活動、一人一人の個性や特徴に応じた学び甲斐のある活動、互いの違いや多様性を生かして豊かな学びを創出し没頭する活動を目指すべきである。幼児期の教育と小学校教育をつなぐ接続期においては、次のような連続性と一貫性を意識して教育活動を展開することが考えられる。



① 能動性・自発性が資質・能力を育成する

子供が自ら学ぶ能動性や自発性を大切にすることが、資質・能力の育成に結び付く。それは、資質・能力は、実際に活用・発揮されることでこそ確かに育成されるからである。したがって、体験活動を位置付けるなどして子供の思いや願いを大切にし、一人一人の子供が自ら学び、主体的に学ぶことを重視しなければならない。

② 異質性や多様性が資質・能力を育成する

それぞれに異なる異質性や様々な存在する多様性が、資質・能力を育成する。なぜなら、異なる多様な他者との学び合い、互いの違いを生かす協働が資質・能力の育成には欠かせないからである。したがって、一人一人の子供の個性や特徴を尊重し生かすことが求められる。

(2) 接続期の充実を具現する「架け橋期」のカリキュラム開発

実際の社会で活用できる資質・能力を育成していくためには、カリキュラム・マネジメントの充実が重要である。中でも、いかにカリキュラムをデザインしていくかが問われており、そのことが資質・能力の育成につながる。とりわけ5歳児と小学校1年生の「架け橋期」のカリキュラムをデザインすることが期待されており、特に心がけなければならないこととして以下の二つを紹介する。

① 「期待する子供像」を設定する 資質・能力の視点から幼児期の教育と小学校教育の接続を図ることである。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりとして、幼児期と小学校で期待する子供の姿を共有しながら、架け橋期のカリキュラムに位置付けるべきである。

② 学びの連続性を確保する

先に示した「期待する子供像」の実現に向けて、遊びのプロセスを質的に高め、期待する学びが連続的に発展することかポイントになる。そのためにも、園における遊びを通して幼児がどのように学びを深めているか、小学校での各教科等における授業はどのように展開され子供の学びを深めているか、その連続性も含め相互理解が求められる。

プロフィール

新潟県公立学校教諭、上越教育大学附属小学校教官、柏崎市教育委員会指導主事、国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、文部科学省初等中等教育局視学官、國學院大學人間開発学部教授を経て令和6年度より現職。主な著書「思考ツールの授業」（小学館）、「深い学び」（東洋館出版）、「深い学びを実現するカリキュラム・マネジメント」（文溪堂）、「学習評価」（東洋館）、「生活・総合資質・能力の育成と学習評価」（東洋館）、「探究モードへの挑戦」（人言洞）など。

シンポジウム

テーマ

乳幼児期から小学校における子どもの学びの姿を考える

趣 旨

2017年の保育所保育指針等の3要領・指針の改訂（改定）と、小学校学習指導要領の改訂によって、乳幼児期から小学校以降の学びの接続が図られました。これらを受けて、保育現場でも小学校期の学びに繋がる姿の可視化、また、小学校では保育現場での育ちを受けた授業実践が行われてきております。本シンポジウムでは、2つの保育園における実践と小学校での実践、それぞれの立場からお話し頂きます。その後、田村先生による指定討論を踏まえて、乳幼児期から小学校期への学びの姿の連続性について考えていきたいと思っています。

シンポジスト

名古屋市立山吹小学校関係者

市川 沙也加 氏（愛知県南知多町立保育園 保育士）

丹羽 加奈子 氏（名古屋市内 民間保育園 元園長）

コメンテーター

田村 学 氏（文部科学省）

コーディネーター

上田 敏丈 氏（名古屋市立大学）

中央研究報告

講 師 保育士養成研究所 研究担当副所長

中央情勢報告

講 師 全国保育士養成協議会 常務理事

セミナープログラム 2日目(オンラインのみ)

※オンラインのため会場にお越しいただいても入場及び会場での視聴はできません。

令和7年8月28日(木) 10:00～13:30		頁
10:00～12:00	分科会 ①保育の質を保障するために養成校に求められること—歴史に学び、今につなぐ— ②保育の質を高める保育実習のあり方 ③ICT活用で広がる保育の可能性 ④保育内容における「遊び」の再考 ⑤子どもの興味関心を引き出す保育教材の可能性 ⑥保育士養成×新・発達支援でアップデート！ ⑦保育実習指導における協働を考える ⑧施設実習の意義と評価について ⑨令和6年能登半島地震における子どもへの支援 ⑩早期離職を防ぐために養成校は何ができるか ⑪保育所・施設における災害時の危機管理 ⑫保育者養成の現在—初年次教育—	12) 25
12:10～13:00	ブロック研究助成報告 《北海道ブロック》 テーマ：保育所実習における「実習先ガイドライン（概要版）」を用いた養成校と保育現場の協働的な実習指導の試み 傳馬 淳一郎（名寄市立大学）・佐藤 貴虎（旭川市立大学短期大学部） 深浦 尚子（札幌国際大学短期大学部）・小林 美花（北海道文教大学） 吉江 幸子（星槎道都大学）・井上 薫（釧路短期大学） 滝澤 真毅（帯広大谷短期大学）・成田 潤子（旭川福祉専門学校） 渡谷 能孝（函館大谷短期大学） 棧 邦夫（オホーツク社会福祉専門学校） 《東北ブロック》 テーマ：保育観の多様性と実習生の自己成長プロセス - 保育者の資質と専門性の向上を目指して - 櫻本 和也（青森明の星短期大学）・鈴木 翔太（福島学院大学） 館山 壮一（修紅短期大学）・寺谷 直輝（聖霊女子短期大学） 小森谷 一郎（聖和学園短期大学）・八木 孝憲（仙台白百合女子大学） 杉中 拓央（東北文教大学）	—

12:10 ~ 13:00	《関東ブロック》 テーマ：関東地方の保育士養成校における学生の自己肯定感の向上をめざす実習の取り組みと課題に関する研究（案） 浅見 優哉（帝京平成大学）・市野 繁子（駒沢女子短期大学） 田中 浩之（群馬医療福祉大学）・野見山 直子（頌栄保育福祉専門学校） 北澤 明子（日本女子体育大学）・田中 路（東京純心大学） 佐藤 かほり（帝京平成大学）・小野 いずみ（帝京平成大学） 田中 卓也（育英大学） 《中部ブロック1》 テーマ：『多文化共生の保育』の実態と我が国の課題 Ver.1 ～オーストラリア・ニュージーランドにおける保育の実態～ 小野 克志（名古屋文化学園保育専門学校） 野崎 真琴（名古屋柳城短期大学） 中島 眞吾（中部大学）・鈴木 恒一（名古屋文化学園保育専門学校） 《中部ブロック2》 テーマ：絵本の読み合いによる感覚的な語り合いの有意義性 —午睡に焦点を当てて— 三好 伸子（金沢星稜大学）・谷 昌代（北陸学院大学） 《近畿ブロック》 テーマ：継続発展研究：保育者における「運動遊び」の教授内容・方法に関する研究 —横断的プログラムにおける「運動遊び」の実践に向けて— 中村 泰介（大阪大谷大学）・地下 まゆみ（大阪大谷大学） 山本 将之（大阪大谷大学）・峯 恭子（大阪大谷大学） 合田 誠（四條畷学園短期大学）・金川 朋子（四條畷学園短期大学） 阪江 豪（四條畷学園短期大学）・松下 明日香（四條畷学園短期大学） 高田 昭夫（大阪総合保育大学）・福鹿 慶子（東大阪大学短期大学部）	—
---------------	--	---

12:10 ~ 13:00	《中・四国ブロック1》 テーマ：保育実習日誌における ICT 活用の教育的効果と課題 —全国保育士養成校へのアンケート調査及びヒアリング調査による分析を中心に— 西川 ひろ子（安田女子大学） 伊藤 一統（宇部フロンティア大学短期大学部） 上村 加奈（広島文教大学）・岡田 恵（松島東雲短期大学） 合原 晶子（広島文化学園大学）・中原 大介（福山平成大学） 《中・四国ブロック2》 テーマ：昭和 30 年代後半の保育実習（広島県立保育専門学校）を読み解く試み —実習記録と聞き取りをもとに— 大庭 三枝（福山市立大学）・小久保 圭一郎（倉敷市立短期大学） 木戸 啓子（倉敷市立短期大学）・三好 年江（就実短期大学） 学術研究助成の成果報告 1. 保育士養成倫理綱領を活用した授業づくり研究 —医療的ケア児に関する教授に着目して— 金川 朋子（四條畷学園短期大学）・丹羽 登（関西学院大学） 平沼 晶子（帝京大学）・川端 奈津子（静岡産業大学） 合田 誠（四條畷学園短期大学）・松下 明日香（四條畷学園短期大学） 舟越 美幸（大阪健康福祉短期大学）・辻本 有里恵（大阪保育福祉専門学校）	—
13:10 ~ 13:30	閉会式	—

分科会 一覧

番 号 テーマ

◆…話題提供者

●…企画・司会者

★…指定討論者

1 保育の質を保障するために養成校に求められること—歴史に学び、今につなぐ—

- ◆勅使 千鶴氏（日本福祉大学）
- ◆平松 知子氏（社会福祉法人 熱田福祉会）
- ◆宮田 やす子氏（NPO法人福祉・保育まなびの）
- 大崎 千秋氏（名古屋柳城短期大学）

2 保育の質を高める保育実習のあり方

- ◆勝野 愛子氏（同朋大学）
- ◆杉山 育代氏（社会福祉法人蓮華会 さば子ども園）
- ◆太田 美鈴氏（愛知県指導保育士連絡協議会）
- 北島 信子氏（同朋大学）

3 ICT活用で広がる保育の可能性

- ◆佐藤 朝美氏（愛知淑徳大学）
- ◆亀山 秀郎氏（学校法人七松学園 認定こども園七松幼稚園）
- ◆藤田 智美氏（株式会社コドモン）
- 山本 聡子氏（名古屋柳城女子大学）

4 保育内容における「遊び」の再考

- ◆磯村 正樹氏（椙山女学園大学）
- ◆木原 圭氏（創作の杜 おいけあした保育園）
- ◆高橋 健介氏（東洋大学）
- 村田 あゆみ氏（名古屋葵大学）
- 鈴木 裕子氏（愛知教育大学）

5 子どもの興味関心を引き出す保育教材の可能性

- ◆伊藤 久美子氏（愛知学泉大学）
- ◆児玉 珠美氏（名古屋女子大学短期大学部）
- ◆山本 麻美氏（名古屋女子大学短期大学部）
- 安藤 恭子氏（名古屋女子大学短期大学部）

6 保育士養成×新・発達支援でアップデート！

- ◆石川 博章氏（岡崎女子大学）
 - ◆川嶋 充園氏（関市児童発達支援センター 関市中央親子教室）
 - ◆小椋 幸子氏（関市立富岡保育園）
 - 丹羽 健太郎氏（椙山女学園大学）
 - ★伊藤 博美氏（椙山女学園大学）
-

分科会 一覧

（分科会一覧：続き）

番 号 テーマ

◆…話題提供者

●…企画・司会者

★…指定討論者

7 保育実習指導における協働を考える

- ◆ 瀧田 弘子 氏（名古屋短期大学）
- ◆ 吉田 龍宏 氏（美和こども園）
- ◆ 中島 奈美子 氏（明照保育園）
- 村上 友香 氏（名古屋文化学園保育専門学校）

8 施設実習の意義と評価について

- ◆ 藤田 哲也 氏（岐阜聖徳学園大学短期大学）
- ◆ 杉浦 晶恵 氏（児童養護施設 麦の穂学園）
- ◆ 村田 泰弘 氏（中部学院大学短期大学部）
- 松本 亜香里 氏（愛知東邦大学）

9 令和6年能登半島地震における子どもへの支援

- ◆ 神杉 充 氏（かみすぎ保育園）
- ◆ 新谷 京子 氏（社会福祉法人 陽風園 みずきこども園）
- ◆ 連 桃李恵 氏（金沢星稜大学）
- 加藤 由紀子 氏（名古屋こども専門学校・小田原短期大学）

10 早期離職を防ぐために養成校は何ができるか

- ◆ 小林 真 氏（富山大学）
- ◆ 立崎 博則 氏（大垣女子短期大学）
- ◆ 吉永 公平 氏（弁護士）
- 日比野 直子 氏（金城学院大学）

11 保育所・施設における災害時の危機管理

- ◆ 清水 宣明 氏（地域災害弱者対策研究所）
- ◆ 藤井 千里 氏（金沢泉丘こども園）
- ◆ 谷口 良美 氏（愛知みずほ短期大学）
- 杉山 佳菜子 氏（愛知みずほ短期大学）

12 保育者養成の現在—初年次教育—

- ◆ 森下 嘉昭 氏（山口芸術短期大学）・渡辺 二美子 氏（西佐波保育園）
- ◆ 山口 明乙香 氏（高松大学）
- ◆ 竹内 佳輝 氏・森 拓也 氏（（株）進研アド 教育事業部）
- 坪井 貴子 氏（東海学園大学）

第1分科会

保育の質を保障するために養成校に求められること

—歴史に学び、今につなぐ—

話題提供	勅使 千鶴氏（日本福祉大学）
	平松 知子氏（社会福祉法人 熱田福祉会）
	宮田 やす子氏（NPO 法人福祉・保育まなびの）
企画・司会	大崎 千秋氏（名古屋柳城短期大学）

【趣 旨】

保育の歴史は古いが、日本において保育所保育が広まったのは一般的に戦後と言われている。保育士養成では、社会的に子どもたちの健全な心身の発達を図ることを目的とし、社会状況や生活の変化に伴った制度の変遷の中で、保育の質の向上を目指してきた。そこには子どもたちの健やかな成長のために保育に関わる数多くの方々が築き上げた歴史と豊かな知見が存在する。ここで改めて、保育の歴史を振り返りながら保育の営みを再確認することは必要である。

そこで、本分科会は、保育の質を保障するために養成校に求められることをテーマとして、3名の先生方に実践と研究に携わる取り組みや、保育者の質を高めてきた手立てをご紹介いただく。普遍的な保育活動におけるあそびについてPISA（学習到達度調査）に触れ、その変化に学びながら、あそびの本質について再確認する。また、実際に学生が書いた実践記録を提示していただきながら、一緒にあそびの指導について考えていきたい。

更に、その実践と研究から見えてきた受け入れ側である保育現場の立場から、具体的に実習生への指導内容や人材育成に至るまでの実際の話をいただく。コロナ禍を経て人間関係の希薄さ故に、「子どもと遊べない保育士」の存在にも触れる。これらの提言から保育者が今につなぐ保育の質を保障するために、養成校に求められることを探っていく機会とする。

【実施方法】

分科会の趣旨説明の後、3名の先生方から話題提供をしていただく。（お一人30分）その後、休憩時間中に、チャットにて質問や意見を受け付け、残りの時間で先生方に質問等に答えていただく。

質疑応答：あり（Zoomのチャット機能を活用して、話題提供者にご回答頂く。）

グループワーク：なし

その他：なし

第2分科会

保育の質を高める保育実習のあり方

話題提供	勝 野 愛 子 氏（同朋大学）
	杉 山 育 代 氏（社会福祉法人蓮華会さば子ども園）
	太 田 美 鈴 氏（愛知県指導保育士連絡協議会）
企画・司会	北 島 信 子 氏（同朋大学）

【趣 旨】

学生が保育士として成長、活躍していくにあたって、どのような保育実習が求められているのだろうか。また、「保育の質」が高まるような実習をどのように指導展開をしていったらよいのだろうか。

これまでも実習での実習日誌、指導案作成など、養成校での実習前指導授業等を経て、学生は実習に出ているが、記録作成に注力するあまり、保育そのものの魅力に触れることが難しくなっていることが指摘されて久しい。そこで、多くの自治体・養成校でも、記録作成の分量を減らし、保育実践そのものの奥深さに触れられるような実習になるよう、保育現場と養成校が連携して、保育の質を高める保育実習のあり方を探究している。

話題提供の先生方から、「子ども理解」、「実習指導者のあり方」とはどのようなことであるのかについて共有しながら、保育の質を高める保育実習をめざし、養成校と保育現場がともに保育士養成を深めていく方途を生きた実践から考えていきたい。

【実施方法】

分科会の趣旨説明の後、3名の先生から話題提供をしていただく（約1時間）。10分程度の休憩時間中に、チャットにて質問を受け付け、チャットでの質問内容等も含め、話題提供者によるディスカッションを行う。

質疑応答 あり（Zoomのチャット機能を活用して、話題提供者にご回答いただきます）。

グループワーク なし

その他 なし

第3分科会

ICT 活用で広がる保育の可能性

話題提供	佐藤 朝美氏（愛知淑徳大学）
	亀山 秀郎氏（学校法人七松学園 認定こども園七松幼稚園）
	藤田 智美氏（株式会社コドモン）
企画・司会	山本 聡子氏（名古屋柳城女子大学）

【趣 旨】

近年、保育実践における ICT（情報通信技術）の活用が注目を集めており、可能性と課題についての検討が急務となっている。幼稚園教育要領や幼保連携型認定こども園教育保育要領では、「環境を通して行う教育」に ICT の活用を位置づけ、保育の質を向上させる手段として期待されている。

日本の保育ではこれまで子どもの直接体験を重視してきた。しかし、コロナ禍で「ソーシャルディスタンス」を求められ、情報機器を活用して場や時間を共有する試みが展開された。こういったこともきっかけの一つとなって ICT を保育現場で活用する機運が高まり、実践事例も積み重ねられている。

ICT を活用することで、子どもたちの興味や関心を引き出したり、これまでは時間的・物理的な制約により触れられなかったような体験をすることができたり、個々の子どもに合わせた保育の展開を行ったりすることができ、またそれらの子どもの学びや気づきを記録・共有し、振り返りに活用したり、子ども理解を深めたりすることにもつながる。その一方で、それらの機器を活用することでの子どもにとってのリスクや、実践を進める主体となる保育者自身が ICT を使いこなすための研修機会・支援体制の確保、データ管理やプライバシー保護のための取組みなど、多くの課題もある。

さらに、ICT の導入による業務効率化も重要な視点である。厚生労働省による「保育分野の業務負担軽減・業務の再構築のためのガイドライン」（厚生労働省、2021）には、保育需要が高まっている一方で仕事量の多さや労働時間の長さなどが退職理由として上位に挙げられている実態が指摘され、業務改善の取り組みが急務とされている。保育分野が目指す業務改善は、保育士が保育に注力できる環境を作り、保育士が子どもと向き合える時間を増やし、ひいては保育の質の向上にも繋げていくことが期待される。そのためのアプローチの一つとして「ICT の活用」が挙げられる。多くの自治体や園が保育施設向けの ICT システムを導入し、園にとっての業務改善になると同時に、情報へのアクセスが容易になり、保護者にとっても利便性が高まっている。現状、多くの ICT システムが開発・提供されており、保育現場の多様なニーズに対応する機能開発も進んでいる一方で、システム活用のためには園の側のハード面・ソフト面の課題もあり、その対策が必要となっている。

本分科会では、3つの具体的な話題提供を通じて、ICT を活用した保育実践の広がりやその課題について議論する。ICT の適切な活用がどのように子どもの育ちや保育の質向上に資するかを考察すると同時に、技術導入に伴うリスク・課題の解決についても意見を出し合い、保育における ICT の未来像を描くことを目指したい。

【実施方法】

3 名の話題提供者にそれぞれの立場で発表いただく。続いて質疑応答を含めながら、話題提供者によるディスカッションを展開する。

質疑応答：あり（質疑応答を設定する。Zoom のチャット機能にてお知らせいただき、司会からの指名にて発言いただく）

グループワーク：なし

その他：なし

第4分科会

保育内容における「遊び」の再考

話題提供	磯村 正樹氏（相山女学園大学）
	木原 圭氏（創作の杜 おいけあした保育園）
	高橋 健介氏（東洋大学）
企画・司会	村田 あゆみ氏（名古屋葵大学）
	鈴木 裕子氏（愛知教育大学）

【趣 旨】

「保育所保育指針解説」には「遊びには、子どもの育ちを促す様々な要素が含まれている」と子どもの「遊び」の重要性が指摘されている。

一方で私たち養成校の教員は、学生に遊びの本質的な意味や子どもの自発的な遊びについて伝えることに苦慮しているのではないか。遊んでいないで「勉強」しなさいと言われ、「真剣」さを要求され、正解に「固着」し、保育を「仕事」にしようと考えている学生たちが、「自由な発想で真剣に『遊ぶ』ことがこどもの仕事」ということに得心し、保育内容における「遊び」の意義を真に理解する保育者になっていくためには、養成校教員の授業における不断の創意工夫が欠かせないだろう。

そもそも子どもにとって遊びとは何か、どのように子どもは遊んでいるのか、それらを知ることなしに保育の遊びを考えることはできない。

本分科会では、保育内容を「遊び」という視点で捉え直し、保育の現場や保育士養成の立場から、これを学生にいかに伝えていくか、また、実際に保育内容を「遊び」として展開させる理念や工夫について、さらに「遊びは学び」という考え方をいかに学生や保育者、保護者といった社会に理解してもらうか、について話題提供の先生方にお話いただく。参加者の先生方からもご意見をいただき、「遊び」について議論を深めていきたい。

【実施方法】

分科会の趣旨説明後、3名の先生方から話題提供をしていただく（お一人20分～25分程度）。10分程度の休憩中にチャットにて質問を受け付け、チャットでの質問内容を含め、話題提供者によるディスカッションを行う。

第5分科会

子どもの興味関心を引き出す保育教材の可能性

話題提供	伊藤 久美子氏（愛知学泉大学）
	児玉 珠美氏（名古屋女子大学短期大学部）
	山本 麻美氏（名古屋女子大学短期大学部）
企画・司会	安藤 恭子氏（名古屋女子大学短期大学部）

【趣 旨】 保育教材の可能性について

子どもが心を惹かれ、関心を寄せる保育教材とはどのようなものか。子どもの活動を支える環境の一要素として保育教材を取り上げ、その可能性について考察する。

保育が環境を通して行われるものであることは既知であるが、保育教材についてはこれまで詳しい議論がなされてこなかった。保育教材は既製の玩具や用具、素材だけでなく、保育者自身が作成したもの、時代に即した教材として情報機器を活用したものや環境に配慮したものなど多岐に亘る。保育者はそうした保育教材を含む環境を適切に構成し、子どもが遊びを深め、より豊かな体験を得られるように援助するとともに、環境を再構成していくことが求められる。そのため、保育者養成課程における授業でも、学生たちが画一的な活動内容に縛られることなく保育教材を扱い、活動を展開する力量を高めていけるような取り組みが必要となる。

昨今の保育者養成課程においては、領域の枠組みを超えて行われる総合的な取り組みや科目間連携授業の報告が多くなされている。そこで、本分科会では保育教材を用いた取り組みの紹介をもとに、保育教材のもつ可能性について横断的な視点をもって議論する。そして、子どもの興味や関心が刺激される環境の設定や総合的な指導について改めて検討する契機としたい。

【実施方法】 話題提供者による講演と質疑応答、意見交換

1. 話題提供者3名による保育教材を用いた取り組みの紹介（各30分程度）

はじめに、伊藤久美子氏が「サンドアートシアター」を教材として①大人によって演出されるシアターを観る、②子どもたち自身が砂に触れて描くという2つの活動を通じた遊びと表現について紹介する。次に、児玉珠美氏が子どもにとっての文字（テキスト）のない絵本の魅力について論じ、文字のない絵本をきっかけとした遊びの展開について報告する。そして、山本麻美氏が造形表現関連科目の取り組みを通じた学生と教員の役割の変化から、保育における環境づくりや保育者の役割について問題提起する。

2. 質疑応答および意見交換、総括

参加者からの質問はチャット機能を用いて随時受け付ける。その内容等を含めた質疑応答および意見交換を経て、今後の保育教材の可能性と課題について話題提供者3名が意見を述べ、総括を行う。

第6分科会

保育士養成×新・発達支援でアップデート！

話題提供	石川 博章氏（岡崎女子大学）
	川嶋 充園氏（関市児童発達支援センター 関市中央親子教室）
	小椋 幸子氏（関市立富岡保育園）
企画・司会	丹羽 健太郎氏（相山女学園大学）
指定討論	伊藤 博美氏（相山女学園大学）

【趣 旨】

本協議会による『保育実習指導のミニマムスタンダード ver.2』（2018年、中央法規）には「養成校への期待、連携」が掲載されている。知的障がい関係施設からは、受け入れたほとんどの実習生が保育所保育士となるものの、「保育所においても、…障がい児の受け入れが進んでいること…発達障がいの可能性が否めない子供たちの存在も少なからずある現状をふまれば、…施設での実習は貴重な経験となる…」(179頁)としている。同書には、「兵庫県下の養成校と児童養護施設・乳児院・知的障害児施設等の施設が協働し、施設で長く働き続ける保育士の養成に力を入れ」、「企画段階から、養成校教員と施設職員とが協働…している」(165-166頁)事例が紹介されている。しかし残念ながら県規模でのこうした協働はまだ少数と思われ、障がい児にとどまらずインクルーシブな保育を担う保育士養成について、自治体単位、養成校単位における実践から、さらなる学びが必要な状況と思われる。

高尾淳子（2017）によれば、障害のある子どもを含むクラスでインクルーシブ保育が実践できる保育者の育成の方策として全国組織主催の研修に着目したものの、研修を受けられる保育士の割合はごく僅かであり、オンデマンド方式での研修が全国組織に求められるとしている。このことは、インクルーシブ保育を実践できる保育者の育成が養成段階でも課題であること、またごく一部の自治体の実践ではあるが幼小連携のように人事交流などによる研修が課題であることを意味している。そこでこの2つの課題に着目し、実践事例を報告いただき、参加者と意見交換を重ねたい。

【実施方法】

まず養成校単位で独自のプログラムによる養成を行っている岡崎女子大学の実践について、石川博章氏および卒業生からご報告いただく（40分程度）。次に、関市における公立の療育施設と保育園の人事交流や公開療育等による連携について、川嶋充園氏および小椋幸子氏からご報告いただく（40分程度）。両者の報告に対して職業教育の観点から指定討論を行い（伊藤博美氏）、それに対する応答をいただいて（20分程度）、最後に ZOOM のチャット機能も活用しながら、参加者との質疑応答・意見交換を重ねたい。

参照：高尾淳子（2017）「インクルーシブ保育推進の視点からみる保育三団体の研修事業の変遷」『同朋論叢（101）』pp.86-68（41-59）

第7分科会

保育実習指導における協働を考える

話題提供	鳶 田 弘 子 氏（名古屋短期大学）
	吉 田 龍 宏 氏（美和こども園）
	中 島 美 奈 子 氏（明照保育園）
企画・司会	村 上 友 香 氏（名古屋文化学園保育専門学校）

【趣 旨】

保育実習は、教科目において修得した知識や技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用能力を養う、保育士養成課程の中核を担うものである。保育実習をより効果的なものとする上で、保育実習指導の充実が不可欠であるが、その際、保育実習が現場に即したものである以上、養成校と実習施設が実習指導における共通認識をもち、協働して取り組むことが必要となる。

2005（平成17）年9月に全国保育士養成協議会専門委員会によって作成された報告書「効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅲ～保育実習指導のミニマムスタンダード～」は、策定に至った問題状況を「養成校と実習施設との間で組織的に了解されている標準的事項が不在である」と指摘した。過去の全国保育士養成セミナーでも、保育実習指導における養成校と実習施設との協働が、分科会テーマとして度々取り上げられてきたが、現在もなお十分に検討すべき課題となり得る。

また、保育実習指導における協働という課題は、養成校と実習施設との間で語られることが多いが、それに限ったことではない。実習を受け入れる実習施設からは、養成校によって実習記録の様式などをはじめとする実習指導の方針が異なることに混乱を感じるとの声がある。一方で、養成校としても、実習施設によって評価基準や指導方針が異なることで、保育実習の評価の公平性をどのように担保するかは課題の一つになっている。

こうした養成校と実習施設それぞれの指導方針のもとに実施されている保育実習指導の標準的事項を共有する機会として、両者の実習指導者研修を共に行う体制を整えていくことが目指されているが、それと同時に、養成校間あるいは実習施設間での横の協働的な取り組みによって、先のような問題の解消が可能となると考える。

よって、本分科会では、保育実習指導における協働について、養成校と実習施設間のみでなく、養成校間、実習施設間など広くその可能性を探りたい。そのために、話題提供者の先生方から、保育実習指導における協働についてお話いただき、その後、ご参加いただいている養成校の先生方と共に、養成校としてどのような取り組みが可能か探っていきたい。

【実施方法】

分科会の趣旨説明の後、3名の先生方から話題提供をしていただく（約90分）。10分程度の休憩時間中に、チャットにて質問を受け付け、その内容等も含め、話題提供者によるディスカッションを行う。

第8分科会

施設実習の意義と評価について

話題提供	藤 田 哲 也 氏（岐阜聖徳学園大学短期大学部）
	杉 浦 晶 恵 氏（児童養護施設 麦の穂学園）
	村 田 泰 弘 氏（中部学院大学短期大学部）
企画・司会	松 本 亜 香 里 氏（愛知東邦大学）

【趣 旨】

保育士資格取得のために必須となる保育実習には、保育所（認定こども園含む）における実習と、保育所以外の児童福祉施設または社会福祉施設における実習（以下、施設実習）が含まれる。保育者養成校に入学する学生の多くにとって、保育所での実習についてはイメージがしやすいと考えられる一方で、施設実習についてはその種別から子ども（利用者）の様子、実習内容等のイメージを持っている学生はかなり少数であると思われる。そのため養成校においては、それぞれの種別概要や保育士職との関連についてなど、一から教えるつもりで授業を展開していることが多いのではないと思われる。しかし、授業が一区切りついて実習も近づきつつある時期になって、「保育士になるのになぜ施設実習が必要なのか」といった質問を学生からされ、思わず肩を落とした経験のある先生もいらっしゃるのではないだろうか。

本分科会では、もともと学生にとってはなじみの薄いかもしれない福祉施設や施設保育士ということを前提に置き、その中で養成校側の教員が施設実習の意義を学生に対してどのように伝える工夫をされているのか、また施設実習を受け入れてくださっている施設側実習担当者の先生方の工夫や思いについても話題提供としてお話いただく。さらに、施設実習の意義を学生に伝えるだけでは本来不十分であり、その意義を理解し実習において自らの実践に活かすことができたのかどうかについて、学生へどのようにフィードバックをするのかも重要である。そのような視点から、学生に対して行われる実習評価に関する研究をされている先生からもお話いただく。その上で分科会参加の先生方とも活発な意見や質問を交換しながら、今後の養成校での取り組みについて考えていきたい。

【実施方法】

分科会の趣旨説明の後、3名の話題提供者からそれぞれ30分程度話をしていただく。話題提供の最中から参加者にはオンラインチャットによる質問を受け付け、その後の質疑応答と合わせて話題提供者によるディスカッションを行う。

質疑応答 あり Z o o mのチャット機能

グループワーク・その他 なし

第9分科会

令和6年能登半島地震における子どもへの支援

話題提供	神 杉 充 氏（かみすぎ保育園）
	新 谷 京 子 氏（社会福祉法人 陽風園 みずきこども園）
	連 桃 季 恵 氏（金沢星稜大学）
企画・司会	加 藤 由 紀 子 氏（名古屋こども専門学校・小田原短期大学）

【趣 旨】

保育所は保育を必要とする人のために存在するが、災害の規模や状況によってはその機能を中断することもある。各保育所では、保育所保育指針に沿って、緊急時の対応に関する具体的なマニュアルの作成や緊急時における保護者への連絡体制と引き渡し方法について対策している。そして、災害発生後の臨時休園や保育の再開については、「保育所における災害発生時等における臨時休園の対応等に関する調査研究（周知）」をもとに各自治体において判断基準を策定するよう令和2年に厚生労働省より通達されており、原則としてそれを基に進められる。なお、高齢者や障がい者等、特別な配慮が必要な人のための福祉避難所に指定されている保育所もあり、その運営が優先されることがある。もしくは、福祉避難所に指定されていなくとも、近隣の避難所のキャパシティによっては被災者の受け入れを想定している園も存在すると聞く。そのような場合や、保育所や職員の被害が大きく再開が難しいケース、家庭の状況等もあり、子どもが長期にわたり避難所で過ごすことも考えられる。よって、保育所以外の場合でも被災した子どもやその家族への支援が必要となる。とはいえ、防災対策と比較して、災害発生後の保育についてはなかなかイメージしづらいのが実情であろう。さらには、緊急時では平時以上に様々な困難があるのは間違いない。物質的な対策はもとより、そのようなときに子どもと関わる者が備えるべき能力について考える必要があるのではないか。令和6年能登半島地震においては、どのように子どもへの支援が行われてきたのだろうか。

この分科会では、大きな被害を受けた被災地やその避難所において子どもを支援してきた保育所の園長先生や養成校の先生から実体験をとおして得た知見をお話ししていただく。実際に被災して、また被害の大きさを目の当たりにしたときに支援する側は何ができるのか。ご参加いただいている先生方とともに被災地における保育について考えていきたい。

【実施方法】

分科会の趣旨説明の後、3名の先生方から話題提供をしていただく（約1時間30分：1名につき30分間、交替時間を含む）。10分程度の休憩中にZoomのチャット機能にて質問を受け付け、チャットの質問内容等も含め話題提供者によるディスカッションを行う。

第10分科会

早期離職を防ぐために養成校は何ができるか

話題提供	小 林 真 氏（富山大学）
	立 崎 博 則 氏（大垣女子短期大学）
	吉 永 公 平 氏（弁護士・大府市）
企画・司会	日 比 野 直 子 氏（金城学院大学）

【趣 旨】

子ども家庭庁が発表した2024年4月の保育士の有効求人倍率は2.42倍であり、依然として保育士不足が続いている。また、「保育士の現状と主な取り組み」（厚生労働省、2020）によれば、2017年の常勤保育士の離職率は9.3%であり、さらに在職保育士のうち経験年数8年未満のものが49.4%と約半数を占めていることから、早期離職率の高さが課題である。

この状況は子どもの育ちの保障という視点から見ると見過ごすことはできない。乳幼児期は生涯にわたる生きる力の基礎を育む極めて重要な時期である。養護と教育を一体的に行うことが求められる保育所保育において、高い質の保育を保障する専門職である保育士が安定的に勤務できる状況を整えることは必要不可欠である。この問題に対して、私たち養成校は一体何ができるのだろうか。

本分科会では、この問題に対し様々な観点から取り組む3名の先生方に話題提供をお願いした。まず、養成校を卒業した初任保育者が一体何につまずくのか、量的・質的調査の結果を踏まえ理解することからはじめたい。次に、要因として考えられる「リアリティギャップ」を軽減する取り組みとして実施している「保育実務研修」の実際から学ぶ。また、さらに、保育現場の状況を異分野、今回は法律家の視点からとらえ直し改善の手立てを探りたい。その上で、ご参加いただいている先生方とともに、早期離職を防ぐために養成校は何ができるかについて考えていきたい。

【実施方法】

分科会趣旨説明の後、前半は3名の先生方から話題提供をしていただく（約1時間）。10分程度の休憩時間中にチャットにて質問を受け付け、後半はその質問内容も含め話題提供者によるディスカッションを行う。質疑応答 あり（Zoomのチャット機能を活用して、話題提供者にご回答いただきます。）

グループワーク なし

その他 なし

第11分科会

保育所・施設における災害時の危機管理

話題提供	清水 宣明氏（地域災害弱者対策研究所・所長）
	藤井 千里氏（金沢泉丘こども園）
	谷口 良美氏（愛知みずほ短期大学）
企画・司会	杉山 佳菜子氏（愛知みずほ短期大学）

【趣 旨】

令和6年8月8日に日向灘で発生した地震により、南海トラフ地震の想定地震域では大規模地震の発生可能性が高まったとして、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表された。海岸線を走る公共交通機関では運休や徐行運転がなされ、中止になったイベントもあるなど、一時的に国民の防災意識は高まった。本来ならば常に高い防災意識を持つべきではあるが、大規模災害の直後やこのような情報が発表された直後は不安や恐怖から一時的防災意識が高まるものの、その意識が継続する人ばかりではない。しかし、保育に携わる者として、常に高い防災意識が必要である。

先日、南海トラフ地震想定地震域の沿岸部出身のある卒業生が、内陸部就職園の避難訓練に対する意識の低さに驚いたという話をしてくれた。保育施設は児童福祉施設最低基準第6条の中で、少なくとも毎月1回は各種災害を想定した避難訓練を行わなければならないと規定されており、地震に限らず様々な避難訓練を行っているが、訓練への意識は施設ごと・保育者ごとに違うと言える。

そこで本分科会では改めて、保育所・施設における危機管理について考えたい。まずは災害弱者の特徴のほとんどすべてを有している保育施設について、科学的根拠と現状分析に基づいた危機管理の視点からの取り組みによって確立された方法論をご紹介いただく。次に、金沢市のこども園での安全計画や避難訓練の実際とともに、令和6年元旦に被災された際の対応とその課題についてお話しいただく。最後に保育現場での経験を踏まえての養成校、学生指導につないでいく実践について、保育者養成の視点で話題提供する。

保育所・施設における災害時の危機管理について、理論と現場での取り組みおよび養成校での取り組みから考え、どのように学生に教授していくとよいのか、どのように危機管理意識を高めていくとよいかの議論を行いたい。

【実施方法】

分科会の趣旨説明ののち、3名の先生方から約1時間話題提供していただく。10分程度の休憩中にチャットにて質問を受け付け、チャットでの質問内容等も含め、話題提供者によるディスカッションを行う。

第12分科会

保育者養成の現在—初年次教育—

話題提供	森 下 嘉 昭 氏（山口芸術短期大学）
	渡 辺 二 美 子 氏（西佐波保育園）
	山 口 明 乙 香 氏（高松大学）
	竹 内 佳 輝 氏 （（株）進研アド 教育事業部）
	森 拓 也 氏
企画・司会	坪 井 貴 子 氏（東海学園大学）

【趣 旨】

初年次教育については、わが国では、平成13（2001）年の中央教育審議会への諮問、「今後の高等教育改革の推進方策について」の答申として平成20（2008）年に取りまとめられた「学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）」で言及され、取り組みが示唆されている。

これら諮問及び答申の背景である大学全入時代と入試形態の多様化による学力低下はますます顕著になり、各校では初年次教育を引き続き実施しており、その成果に関する文献も多数みられる。

初年次教育の内容は、アカデミックライティングやその他の大学での学修の方法に関する補助的な内容が中心となっている。大学の学部、専門に関わらず共通する基礎的なものもあるが、文献によると専門に応じた特色ある指導もみられるようだ。

そこで、本分科会でも、初年次教育の枠組みを拡げ、基礎的なものから保育士養成にかかわるものを取り上げ、それぞれの分野に携わっていらっしゃる話題提供者の方々から各方面の「初年次教育」についてご紹介いただき、参加者の皆様にはそれぞれの学校での教育実践に生かしていただけることを期待してこのような企画をした。

1 番目の話題は、本格的な保育実習前の見学実習についてである。見学実習を実施されている養成校とそれを受け入れていらっしゃる保育園双方から話題提供していただく。どこの養成校でも実習の成果向上のために検討したり工夫なさっていることと思われるため、関心の高い話題であろう。

2 番目は、ICT 活用に関する話題提供である。ICT 活用は大学における学修に欠くことができないものであるが、学生のスキルの修得はどこの養成校でも苦慮されていることと思われる。また、今回は合わせて福祉分野における ICT 活用に関する授業実践も紹介していただける予定であるため、一般的な ICT 活用だけでなく、保育・福祉分野における ICT 活用の可能性と学生の学びについて知見が得られ、各校で参考にしていただけるのではないだろうか。

3 番目は教育関連企業からの話題提供である。各養成校では自校以外のデータは得にくいいため相対的な比較や評価が難しいが、教育関連企業ならではの多くのデータと積み重ねから得られる知見を紹介していただくことにより、初年次教育に関して新たな示唆が得られることを期待したい。

【実施方法】

分科会の趣旨説明の後、4 名の方から話題提供者をしていただく（全体で1 時間半を予定）。その後、参加者の方々から質問やご意見を募り、議論を深めたい。

セミナー参加申込（WEB）のご案内

セミナー参加申込の流れ

1

全国保育士養成協議会ホームページ内にある全国保育士養成セミナーページ
(<http://www.hoyokyo.or.jp/seminar/>) の「参加申込フォーム」からお申し込みください。

申込期間：令和7年5月15日（木）10時00分～7月25日（金）15時00分

- ※ 参加申込は1人ずつお申し込みください。
- ※ セミナーには、学生・大学院生および児童福祉施設職員等の方も参加できます。
- ※ 参加者にはセミナー直前（概ね1週間前）に、実施要項等の案内をメールにてお送りしますので、参加者ごとに確認できるメールアドレスの登録をお願いします。



2

下記の払込先に参加費の払い込みをお願いします。（払込に係る手数料はご負担願います）

払込締切：令和7年7月31日（木）まで

●ゆうちょ銀行の窓口・ＡＴＭからの払込

00160-1-607757 一般社団法人 全国保育士養成協議会

※2人以上まとめて振り込む場合は、払込取扱票の通信欄に全員のお名前を記入してください。

●ゆうちょ銀行以外からの払込

金融機関コード：9900 店番：019 預金種目：当座 口座番号：0607757

一般社団法人全国保育士養成協議会

※2人以上まとめて振り込む場合は、必ず事前にご連絡ください。



3

セミナー直前（概ね1週間前）に、実施要項等の案内をメールにてお送りします

- ・ 資料の配布方法についてはメールにてご確認ください。
 - ・ 領収書の発行は払い込み時の受領証をもって代えさせていただきます。
- ※ 別途ご希望の場合は全国保育士養成協議会総務課宛てにメール（seminar@hoyokyo.or.jp）にてご依頼ください。

【参加申込内容のキャンセルについて】

参加申込をキャンセルする場合は、令和7年8月1日（金）までに「変更届」に必要事項をご記入の上、メール(seminar@hoyokyo.or.jp)にてお送りください。

令和7年8月1日（金）までにご連絡をいただいた場合に限り、お支払いいただいた金額から振込手数料を差し引いた金額を返金いたします。

なお、令和7年8月2日（土）以降のキャンセル・返金についてはできかねますのでご了承ください。

【参加申込内容の変更について】

参加申込内容を変更される場合は、令和7年8月1日（金）までに「変更届」に必要事項をご記入の上、メール(seminar@hoyokyo.or.jp)にてお送りください。

なお、令和7年8月2日（土）以降の変更については、申込状況により対応させていただきます。

【変更届】

全国保育士養成協議会ホームページ内にある全国保育士養成セミナーページ
(<http://www.hoyokyo.or.jp/seminar/>) に「参加申込フォーム」とあわせて掲載します。

【キャンセル・変更についてのお問合せ先】

一般社団法人全国保育士養成協議会 総務課

T E L : 03-3590-5551

E-mail : seminar@hoyokyo.or.jp

令和7年度全国保育士養成セミナー

運 営 組 織

運 営 組 織 委 員 会

(令和7年3月31日現在)

No.	担 当	氏 名	全国保育士養成協議会役職名	所属・職名等
1	組織委員長	汐 見 稔 幸	会長	白梅学園大学 名誉学長
2	委 員	小 川 清 美	副会長	東京純心大学 特任教授
3	委 員	安 原 千 香 子	副会長	大阪保育福祉専門学校 校長
4	委 員	矢 藤 誠 慈 郎	常務理事	和洋女子大学 教授
5	委 員	佐 藤 貴 虎	常任理事（北海道ブロック）	旭川市立大学短期大学部 副学長
6	委 員	三 浦 光 哉	常任理事（東北ブロック）	聖和学園短期大学 学長
7	委 員	植 草 和 典	常任理事（関東ブロック）	植草学園大学・植草学園短期大学 理事長
8	委 員	加 藤 紳 一 郎	常任理事（中部ブロック）	名古屋文化学園保育専門学校 理事長・校長
9	委 員	大 方 美 香	常任理事（近畿ブロック）	大阪総合保育大学 学長
10	委 員	齊 藤 育 子	常任理事（中・四国ブロック）	山陽学園短期大学 学長
11	委 員	福 元 裕 二	常任理事（九州ブロック）	西九州大学・西九州大学短期大学部 理事長・学長

企 画 委 員 会

No.	担 当	氏 名	所 属	職 名 等
1	大 会 長	菊 地 伸 二	名古屋柳城女子大学・名古屋柳城短期大学	理事長・学長
2	実 行 委 員 長	加 藤 紳 一 郎	名古屋文化学園保育専門学校	理事長・校長
3	企 画 委 員 長	上 田 敏 丈	名古屋市立大学	教授
4	副 企 画 委 員 長	村 田 あ ゆ み	名古屋女子大学	教授
5	副 企 画 委 員 長	青 山 佳 代	名古屋柳城女子大学	准教授
6	企 画 委 員	北 島 信 子	同朋大学	教授
7	企 画 委 員	村 上 友 香	名古屋文化学園保育専門学校	専任教員
8	企 画 委 員	村 田 あ ゆ み	名古屋女子大学	教授
9	企 画 委 員	安 藤 恭 子	名古屋女子大学短期大学部	講師
10	企 画 委 員	日 比 野 直 子	金城学院大学	准教授
11	企 画 委 員	松 本 亜 香 里	愛知東邦大学	講師
12	企 画 委 員	伊 藤 博 美	椋山女学園大学	教授
13	企 画 委 員	坪 井 貴 子	東海学園大学	准教授
14	企 画 委 員	加 藤 由 紀 子	名古屋こども専門学校	専任講師
15	企 画 委 員	杉 山 佳 菜 子	愛知みずほ短期大学	教授
16	企 画 委 員	山 本 聡 子	名古屋柳城女子大学	准教授
17	企 画 委 員	柴 田 智 世	名古屋柳城短期大学	教授
18	企 画 委 員	大 崎 千 秋	名古屋柳城短期大学	教授

実 行 委 員 会

No.	担 当	氏 名	所 属	職 名 等
1	大 会 長	菊 地 伸 二	名古屋柳城女子大学・名古屋柳城短期大学	理事長・学長
2	実 行 委 員 長	加 藤 紳 一 郎	名古屋文化学園保育専門学校	理事長・校長
3	事 務 局 長	鈴 木 恒 一	名古屋文化学園保育専門学校	専任講師
4	企 画 委 員 長	上 田 敏 丈	名古屋市立大学	教授
5	副 実 行 委 員 長	野 田 さ と み	名古屋柳城女子大学	教授
6	副 実 行 委 員 長	野 崎 真 琴	名古屋柳城短期大学	教授

No.	担 当	氏 名	所 属	職 名 等
7	実 行 委 員	難 波 純 子	富山短期大学	准教授
8	実 行 委 員	古 村 勇 樹	高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所	教授
9	実 行 委 員	清 水 美 里	富山福祉短期大学	助教
10	実 行 委 員	佐部利 典 彦	富山国際大学	准教授
11	実 行 委 員	澤 聡 美	富山大学教育学部	准教授
12	実 行 委 員	黒 山 美千代	石川県立保育専門学園	教務課長
13	実 行 委 員	柴 田 英 登	金城大学短期大学部	講師
14	実 行 委 員	斎 藤 修 啓	金城大学	教授
15	実 行 委 員	中 島 賢 介	北陸学院大学	教授
16	実 行 委 員	川 崎 恵 理	仁愛女子短期大学	講師
17	実 行 委 員	出 村 友 寛	仁愛大学	准教授
18	実 行 委 員	栗 原 美 幸	福井県医療福祉専門学校	校長
19	実 行 委 員	三 好 伸 子	金沢星稜大学	教授
20	実 行 委 員	藤 井 徳 子	金沢学院大学	准教授
21	実 行 委 員	砂 山 真喜子	金沢学院短期大学	教授
22	実 行 委 員	大 西 薫	岐阜聖徳学園大学短期大学部	准教授
23	実 行 委 員	柿 島 新太郎	東海学院大学短期大学部	専任講師
24	実 行 委 員	栗 岡 洋 美	中京学院大学短期大学部	准教授
25	実 行 委 員	倉 畑 萌	中部学院大学短期大学部	講師
26	実 行 委 員	立 崎 博 則	大垣女子短期大学	講師
27	実 行 委 員	奥 村 正 彦	岐阜女子大学	准教授
28	実 行 委 員	川 上 知 幸	中部学院大学	講師
29	実 行 委 員	杉 山 章	東海学院大学	教授
30	実 行 委 員	本 多 恭 子	岐阜聖徳学園大学	教授
31	実 行 委 員	林 幹 士	高田短期大学	准教授
32	実 行 委 員	小 川 真由子	皇學館大学	准教授
33	実 行 委 員	徳 増 全 矢	ユマニテク短期大学	准教授
34	実 行 委 員	犬 飼 和 夫	鈴鹿大学	准教授
35	実 行 委 員	野 中 壽 子	名古屋市立大学	教授
36	実 行 委 員	柴 田 智 世	名古屋柳城短期大学	教授
37	実 行 委 員	大 崎 千 秋	名古屋柳城短期大学	教授
38	実 行 委 員	北 島 信 子	同朋大学	教授
39	実 行 委 員	神 谷 良 恵	同朋大学	専任講師
40	実 行 委 員	村 上 友 香	名古屋文化学園保育専門学校	専任教員
41	実 行 委 員	瀬 木 ゆかり	名古屋文化学園保育専門学校	専任教員
42	実 行 委 員	村 田 あゆみ	名古屋女子大学	教授
43	実 行 委 員	榊 原 剛	名古屋女子大学	准教授
44	実 行 委 員	上 村 千 尋	金城学院大学	教授
45	実 行 委 員	日比野 直 子	金城学院大学	准教授
46	実 行 委 員	大 嶽 さと子	名古屋女子大学短期大学部	教授
47	実 行 委 員	安 藤 恭 子	名古屋女子大学短期大学部	講師
48	実 行 委 員	松 本 亜香里	愛知東邦大学	講師
49	実 行 委 員	渡 邊 明 宏	愛知東邦大学	講師
50	実 行 委 員	伊 藤 博 美	椙山女学園大学	教授
51	実 行 委 員	丹 羽 健太郎	椙山女学園大学	准教授

No.	担 当	氏 名	所 属	職 名 等
52	実 行 委 員	坪 井 貴 子	東海学園大学	准教授
53	実 行 委 員	木 村 拓 磨	東海学園大学	講師
54	実 行 委 員	加 藤 由紀子	名古屋こども専門学校	専任講師
55	実 行 委 員	高 木 芳 子	名古屋こども専門学校	助教
56	実 行 委 員	谷 口 良 美	愛知みずほ短期大学	特任教授
57	実 行 委 員	杉 山 佳菜子	愛知みずほ短期大学	教授
58	実 行 委 員	小 野 隆	名古屋柳城女子大学	教授
59	実 行 委 員	山 本 聡 子	名古屋柳城女子大学	准教授
60	実 行 委 員	奥 蘭 知 明	岡崎女子短期大学	准教授
61	実 行 委 員	井 手 裕 子	愛知学泉短期大学	教授
62	実 行 委 員	加 藤 克 俊	豊橋創造大学短期大学部	准教授
63	実 行 委 員	鈴 木 裕 子	愛知教育大学	教授
64	実 行 委 員	稲 生 圭 子	慈恵福祉保育専門学校	保育学科長
65	実 行 委 員	伊 藤 久美子	愛知学泉大学	教授
66	実 行 委 員	富 山 幹 子	中部福祉保育医療専門学校	学科長
67	実 行 委 員	伊 藤 喬 治	岡崎女子大学	講師
68	実 行 委 員	吉 見 昌 弘	名古屋短期大学	教授
69	実 行 委 員	東 内 瑠里子	日本福祉大学	准教授
70	実 行 委 員	中 西 遍 彦	修文大学短期大学部	教授
71	実 行 委 員	玉 田 裕 人	愛知文教女子短期大学	講師
72	実 行 委 員	瀬 野 由 衣	愛知県立大学	准教授
73	実 行 委 員	金 森 由 華	至学館大学	准教授
74	実 行 委 員	武 藤 直 子	桜花学園大学	教授
75	実 行 委 員	飯 田 幸 恵	名古屋経済大学	准教授
76	実 行 委 員	想厨子 伸 子	名古屋学芸大学	教授
77	実 行 委 員	加 藤 希 央	名古屋経営短期大学	講師
78	実 行 委 員	吉 村 美由紀	名古屋芸術大学	准教授
79	実 行 委 員	采 翠 真 澄	中部大学	教授
80	実 行 委 員	岡 田 泰 枝	愛知淑徳大学	教授

一般社団法人

全国保育士養成協議会

〒171-8536 東京都豊島区高田3-19-10

電 話 03-3590-5551（総務課）

FAX 03-3590-5591

E-mail seminar@hoyokyo.or.jp